

## 画廊きらら 展示作品案内

画廊きららでは、糸魚川市が所蔵している美術品を展示しています。  
現在、展示中の作品をご紹介します。

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>「<sup>えん</sup>EN」</p> <p><b>カテイトエ</b></p> <p>糸魚川市根知在住の梅津諭、和枝夫妻によるユニット作品。フランス 2017 サロン・デ・ボ・ザール展審査員賞受賞。同展イラスト部門テーマ「city」に沿い、人々の縁と博愛、平和の願いを描いたもの。</p> <p>(個人蔵・借用作品)</p> | <p>「<sup>ぼさつ</sup>菩薩」</p> <p><b>おぐら ゆ き 小倉遊亀</b></p> <p>滋賀県出身の日本画家。昭和 13 年に旧青海町(現糸魚川市)出身の小倉鐵樹と結婚し、のちに同町の名誉町民となりました。本作は 72 歳の作品で、やわらかな線と淡い色彩によって、柔和な菩薩が描かれています。昭和 55 年文化勲章受章。</p> | <p>「<sup>しょうき おにめん</sup>鍾馗と鬼の面」</p> <p><b>かなぎ 旧金城町</b></p> <p>島根県旧金城町は現在の浜田市で、相馬御風の師である島村抱月の出身地です。浜田市では石見神楽が盛んで、鍾馗は演目の一つです。この面は「カチューシャの唄 知音都市交流」のご縁でいただいたものです。</p> |
| <p>「<sup>やまんぼ</sup>山姥面」 <b>5面</b></p> <p><b>のうじんかい 能仁会</b></p> <p>糸魚川市上路は山姥伝説で有名です。この能面は、シテ方5流派(観世流・宝生流・金春流・金剛流・喜田流)のそれぞれの山姥面であり、各家元に秘蔵されていた面を精巧に模刻したものです。</p>          | <p>「<b>真</b>」</p> <p><b>きたやま そふう 北山素風</b></p> <p>市内在住の書家。真の旧字体である真の一字を太字で大胆に書いた作品です。</p> <p>※ここ「画廊きらら」の入口看板の文字は同氏によるものです。</p>  | <p>「<sup>まんようしゅう</sup>万葉集」</p> <p><b>はやし ちくすい 林 竹翠</b></p> <p>市内在住の書家。本作は平成 28 年 9 月、日本鉱物科学会によりヒスイが国石に選ばれたことを記念して作成された篆刻作品です。万葉集の「沼名河の底なる玉」。</p>                   |
| <p>「<sup>えいぎよく</sup>詠玉」</p> <p><b>はやし ちくすい 林 竹翠</b></p> <p>市内在住の書家。本作は平成 28 年 9 月、日本鉱物科学会によりヒスイが国石に選ばれたことを記念して作成された篆刻作品です。詩は東京都在住の詩人、弓場直彦の作品。</p>                       | <p>「<sup>あさ</sup>朝のポーズ」</p> <p><b>ふじまきくにひこ 藤巻邦彦</b></p> <p>作者は彫刻家として糸魚川地域、青海地域で木彫教室を主宰し、数多くの作品を手がけました。この作品は、片膝立ちの女性が眩しそうに顔を上げており、清々しい朝日がそこに射し込んでいるようです。</p>                      | <p>「<sup>うん</sup>運」</p> <p><b>ふじい たづこ 藤井多鶴子</b></p> <p>兵庫県出身の洋画家で抽象画を多く描いています。この作品は、黒と灰色を基調とし、ただならぬ“運”の雰囲気を感じます。</p>   |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>じゅえき<br/>「樹液」「樹液-7」<br/>ふじまきくにひこ<br/>藤巻邦彦</p> <p>2点の木彫作品です。どろりと垂れる樹液が植物の生命力を感じさせます。</p>                                      | <p>ぎょせん<br/>「漁船」<br/>みやた よしお<br/>宮田芳男</p> <p>市内画家。荒天で漁に出られなかった漁船を描いたものでしょうか。迫力ある船尾が印象的です。</p>                 | <p>みち<br/>「道」<br/>もりやまともき<br/>森山知己</p> <p>岡山県出身の日本画家。日本画の古典的な画材や描法、技術の研究者としても有名です。本作は淡い色調の風景画です。</p>           |
| <p>はだか せいねんぞう<br/>「裸の青年像」<br/>ふじまきくにひこ<br/>藤巻邦彦</p> <p>若々しい肉体と、首を突出し好奇心あふれるような表情が、青年らしさを表しています。</p>                             | <p>こ たきがわ きょう<br/>「小滝川ひすい峡」<br/>かわいしゅうほう<br/>川合秀峰</p> <p>市内日本画家。水量が少なく、静かな同所を描いています。</p>                      | <p>だれ どこ<br/>「誰かと何処かへ」<br/>よね だ ひでたか<br/>米田英隆</p> <p>富山県の洋画家。富山市美術展の洋画審査員等を務めています。本作は橋上の糸魚川駅から西方向が描かれています。</p> |
| <p>まがたま も いと いがわ おんな<br/>「勾玉を持つ糸魚川の女」<br/>いし だ かず ま<br/>石田一馬</p> <p>市内在住の彫刻家。糸魚川のシンボルでもあるヒスイの勾玉を掲げ持つ若い女性です。凛とした女性の表情が印象的です。</p> | <p>りょうおう まい<br/>「陵王の舞」<br/>もり さんぼう<br/>森 三峯</p> <p>市出身の画家。4月に行われる天津神社舞楽の最後に舞われる陵王を描いたもので、静寂と躍動、緊張感が伝わります。</p> | <p>ゆき<br/>「雪のけんかまつり」<br/>もり てつろう<br/>森 哲郎</p> <p>4月10日の糸魚川けんか祭りに雪が降ることは稀にありますが、本作はそれを描いたものです。</p>              |

場内の作品には手を触れないでください。

## 画廊きらら

青海総合文化会館 きららカルチャースペース2階

開館時間 9:00~17:00 ※月曜休館

入場無料 入場の際は、受付にお声掛けください。